

2023年のヒトと話題を比較する

毎年この時期の CBCA NEWS は、その年の振り返りをコラム記事としておりますが、今回は 2023 年を象徴する人物や話題について、類似する対象と比べながら綴りたいと思います。

✚ 二人のスーパースター（大谷翔平と藤井聡太）

今年の顔として誰もが真っ先に思い浮かべるのは、メジャーリーガーの大谷翔平選手でしょう。彼の活躍は今更言うまでもありませんが、春先のワールド・ベースボール・クラシック（WBC）では日本チームを優勝に導く大活躍、続くメジャーリーグでは投手と打者の二刀流で大車輪の活躍を見せ、日本人初のホームラン王と 2 度目の最優秀選手（MVP）に輝きました。シーズン終了後も、メジャー史上最高額となる移籍契約について連日報道がなされ、彼への注目はとどまることがありません。

一方、知能に優れた今年の顔といえば、将棋界初の八大タイトル独占の偉業を達成した藤井聡太八冠でしょう。将棋で初の永世七冠を達成した羽生善治氏が国民栄誉賞を受賞したのは 2018 年。それから僅か 5 年後に、羽生氏の功績をも凌駕する若き王者が誕生するとは驚きです。

住む世界が全く異なる二人のスーパースターですが、報道等から二人はある共通点を持つ若者であることが覗えます。それは、二人ともそれぞれ「野球の虫」「将棋の虫」と評されるような熱心さで、試合や練習に没頭する人物であることです。凡人の我々は「たまには違うことに興味を持って息抜きでもしたら？」と要らぬおせっかいを焼きますが、彼らは今が鍛錬の時期と自覚し、その手を休めようとしません。そして、スポーツ科学や AI 技術の発展によりもたらされる最新の効率的な方法を取り入れることに貪欲です。大谷選手はレベルの高い二刀流を続けるために練習方法を工夫し、加えてパフォーマンス向上のために長時間の睡眠を日課としています。藤井八冠は AI 将棋ソフトを用いた研究に、どの棋士よりも熱心に取り組んでいるといわれます。

最先端の情報やノウハウの収集が容易な今の時代は、天才がその能力を更に向上させるのには適した時代なのかもしれません。でも、最も大切なのはその人の果てしなき情熱であることを、二人は私たちに教えてくれています。

✚ 二人の政治家（岸田首相と松野官房長官）

政界における今年の顔となれば、必然的に時の総理である岸田首相の姿が浮かび上がります。歴代の首相が着手できなかった政策に取り組んだと評価する声もありますが、年後半は何をやっても支持率の低下が止まらず、しまいには「増税メガネ」と揶揄されるなど散々なありさまです。発信力の弱さは当初から指摘されていましたが、人柄は良いものの、いったい何をしたいのか分からない首相との評価が定着するにつれ、リーダーに求める人物像と岸田氏が一致しないと、既に多くの国民が判定を下したのかもしれません。

年末にかけて俄然脚光を浴びたのが松野官房長官です。しかしながらその理由は、官房長官としての働きぶりではなく、いわゆる「パー券裏金問題」に端を発してのことです。記者会見等で何度質問を向けられても「お答えを差し控える」を連発し、お話にならない官房長官のレッテルを貼られた感があります。松野氏は早稲田大学法学部卒、松下政経塾出身の有能な政治家と政界では高く評価されていますが、国民にはその有能さが全く伝わってきません。守りが固い官房長官との声もありますが、その姿は亀のように甲羅に閉じこもっているだけに見えてしまいます。

全体に最近の日本の政治家（特に大臣クラス）は、用意されたペーパーを棒読みする姿が目立ち、自分の言葉で意見を発信しようとする意識が低いように思われます。間違えず、失言をしないための方策ではあると理解しますが、その姿から有権者は何を感じるか、少しは考えて欲しいものです。それとも、それで十分事足りる商売なのでしょうか。政治家の質が落ちているのか、そうした政治家を選ぶ有権者にも問題があるのか、なんとも憂慮されるべき状態です。

✚ 二つのスキャンダル（ビッグモーター社とジャニーズ事務所）

組織絡みの不祥事が報道されることは珍しくありませんが、今年ほど組織のスキャンダルの報道が際立った年も珍しいです。

中古車販売大手のビッグモーター社は、自動車保険の保険金を不正に請求していたことが発覚しました。問題視される不適切な行為は多岐に渡り、その背景には経営陣によるパワハラがあったとされます。オーナー社長やその息子である副社長は責任を取って早々に辞任したものの、新経営陣による立て直しは苦戦が伝えられています。

芸能事務所大手の旧ジャニーズ事務所は、創業者である故ジャニー喜多川氏による性加害問題が表面化しました。被害者が男性であったことやジャニー氏がエンタメ業界の実力者であったことなどから今まで報道を避けてきた大手メディアも、事の重大さを認識し報道姿勢を一変させました。旧ジャニーズ事務所は組織再編等による問題解決の方針を打ち出していますが、被害者への賠償や今後の事務所運営等に大きな課題を抱えています。大手メディアにおいても過去の報道姿勢を問われる、大きな社会問題となりました。

さて、二つの事案とも組織のトップによるハラスメントがスキャンダルにつながった訳ですが、事件発覚後は加害当事者が表舞台に全く姿を現していません。ビッグモーター社において最もパワハラが酷く事件の元凶と噂される前副社長は、社長の辞任会見の場にも同席せず、その後雲隠れを続けています。旧ジャニーズ事務所のジャニー喜多川氏は既に故人となっており、もはや追及されることはありません。

これらの件にかかわらず、加害者側の人権を慮って、加害者が表に姿を現さないまま調査や捜査が行われるケースは少なくありません。もちろん、加害者が表に姿を現すことは世間からの激しいバッシングを受けることにつながるため、慎重に事を進める必要はあるでしょう。しかしながら、誰が何をしたかが世間からよく見えず有耶無耶なままで、真に問題の解決が図れるのか、そして今後類似のスキャンダルの抑止につながるのかと、ときどき歯がゆく感じてしまいます。

さて、来年2024年は辰年で、干支は「甲辰（きのえたつ）」です。「甲」は草木の成長を表す意味があります。竜が天を駆け、植物がぐんぐん成長するように、勢いが感じられる年であることを期待したいところです。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒105-0012
東京都港区芝大門 1-1-32
御成門エクセレントビル 8階

TEL : 03-6459-0161 FAX : 03-6435-7717
mail@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先